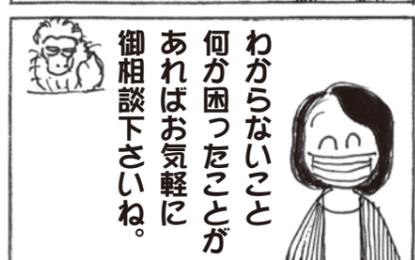
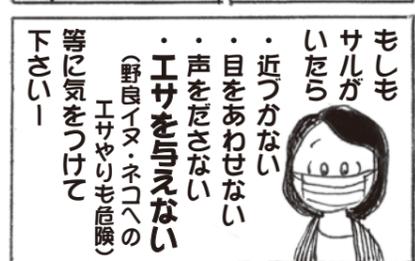


まゆみがゆく

連載
第56回
サル現わるの巻



みやけ 三宅まゆみのプロフィール
若松区選出・58歳

生年月日：昭和38年(1963)7月1日生まれ
星座：かに座
血液型：A型
家族：夫(元県議会議員 野村陽一)、一男(16才)
趣味：自然に触れる事、食に関する事
好きな言葉：一生感動 一生勉強
学歴：県立若松高等学校卒業、長崎ウエスレヤン短期大学英語科卒業、北九州市立大学法学部II部行政学科卒業、九州大学大学院法府政治学専攻(修士)修了
職歴：毎日新聞西部本社、アジア太平洋博覧会勤務などを経て、北九州市議会議員(平成9年より)現在に至る
所属：教育文化委員会

2月議会の質問項目です。(一部)

- 《代表質疑》
- 1、新型コロナウイルス感染症拡大防止と支援策について
 - 2、SDGs 未来都市について
 - 3、グリーン成長戦略と経済施策について
 - 4、デジタル市役所推進事業について
 - 5、文化スポーツの振興について
 - 6、子育て支援について
 - 7、教育について
 - 8、お出かけ交通支援事業について
- 《市長質疑》
- ・ひとり親コンシェルジュについて
 - 《特別委員会第2分科会》
 - ・ヤングケアラーについて
 - ・夏の過酷な労働環境の給食室への空調整備を急ぐことについて
 - ・民間の団体などを活用したがん教育について
 - ・障がい者の施設でのPCR検査について
 - ・手話言語条例について
 - ・動物愛護について
 - ・若年層の自殺対策
 - ・世界体操・新体操について
 - ・総合体育館駐車場の拡充について
 - ・みんなの(誰でも)トイレについて
 - ・若者の消費者被害拡大防止について
 - ・児童虐待対策と子どもへの性的虐待調査と性被害へのケアについて 他



委員会にて

北九州市区域区分見直し (市街化区域から市街化調整区域への変更)について

本市では今後の急速な人口減少等を見据えコンパクトなまちづくりを推進するとして現在各区で区域区分の見直しの検討が行われています。どちらもメリット、デメリットがありますのでお住まいの地域がどうなっているのかぜひ関心を持って頂きたいと思えます。若松区では東部を中心に見直し候補地があげられています。コロナ禍で地域での説明会が遅れていますが、今後市政だよりや私も地域説明会などの日程が決まりましたらホームページなどでも発信して参ります。詳しくは市のホームページでご覧いただけます。

※市街化区域とは：まちを活性化させるために開発する地域
※市街化調整区域とは：まちが無秩序の活性化しないように開発しない区域

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ken-to/07900339.html>



市政に関するご相談は
下記の三宅まゆみ事務所までお気軽にご連絡下さい

三宅まゆみ 事務所

〒808-0063 若松区和田町16-4
Tel 093-751-8206 Fax 093-752-0787
E-mail mayu1717@bronze.ocn.ne.jp
<http://www.mayumi-arigato.jp/>



北九州市議会 ハートフル北九州

〒803-0813 北九州市小倉北区城内1-1 Tel 093-582-2658 Fax 093-582-4867

北九州市議会



ハートフル北九州

市議会
議員

三宅まゆみの

みやけ

Mayumi
Miyake's
NEWS LETTER

No.71
AUTUMN
2021

ニュースレター

市議会議員 三宅まゆみのニュースレター ●2021年秋号[通算71号] ●2021年11月1日発行 ●発行人・編集人:三宅まゆみ

市政に関することは一人で悩まずご相談下さい。

晩秋の候、皆様お変わりございませんか?お陰様で1月の選挙で再選させていただきコロナ対策に奔走する日々であったという間に月日が過ぎました。本市では昨年の3月1日に初めての新型コロナウイルス感染症患者が確認され、今年10月末までに1万800人以上の陽性者を確認し、100名以上の方がお亡くなりになられる事態となりました。お亡くなりになられた皆様には心よりご冥福をお祈り致します。また現在病気と闘っておられる方々、また陰性になった後も後遺症に苦しんでおられる方には心よりお見舞い申し上げます。

今期は議会で11名の会派「ハートフル北九州」の代表としてこれまでに増して忙しく仕事をさせて頂いております。この間特に新型コロナの感染拡大に伴い国や県の新しい方針が出るたびに代表者会議が行われ、その都度市民の方からいただいたご意見やご要望などを参考に現状の問題点など指摘させていただき、出来るだけ迅速な問題解決に努めて参りました。とは言え、まだまだ課題は山積しております。これからコロナ禍で苦しんでおられる方々の少しでもお役にたてますよう、またさまざまな市政に関するお困りごとを抱えて悩んでいる皆様に寄り添って頑張る所存です。何かございましたらどうぞご遠慮なくご相談ください。



高校生が子どもの貧困について話を聞きにきてくれました。



お陰様でこの4月から息子は高校生になりました。自立するまでまだ先は長いのですが、小さい頃は仕事と子育ての両立に悩みながらあたたかふたしていたのがかからなくなりました。過ぎてみればあつという間だったような気がします。今になってみれば小さい頃が楽しかったなあと懐かしく思います。できる事ならあと二人くらい子どもが欲しかったのですが、私は一人目が(42才で出産)遅かった事もありかないませんでした。

今議会で質問しましたがコロナ禍で出生率が急速に下がっています。少子化が進めば高齢世代を支えられなくなり、働き手の減少や国内の消費マーケットの縮小他でまちが衰退していくことも危惧されます。子どもを産みたい方が産みたい人数産んで育てられるよう安心して産み育てやすい環境づくりに今後もさらに取り組んで参ります。

